

銅賞

一番大切なこと

横須賀市立大津中学校三年

大竹晴日

私の親は私が、小学五年生の時に離婚をしました。それまでは仲の良い五人家族だと私は思っていました。私にとっては急な離婚でした。それまでは離婚するなんて一度も考えたことなんてありませんでした。

でも、どんな理由でも私は離婚すると言う結論なんて出してほしくなかったです。どんな理由でその結果に辿りついたのか子供の私には分かりませんでした。今でも理由が分かりません。

お母さんは私には、

「お母さんとお父さんは相性が悪かったの。だから別れたの。」
と言いますが本当は違うような気もしたけど自分の思っていることは一つも言えませんでした。

ただでさえ、迷惑をかけてしまい毎日仕事や家事を頑張っているお母さんに、本当の気持ちを言う権利なんて子供の私にはないと思っていました。

でも弟は、お母さんとお父さんにはつきり

「離婚したくない。一緒がいい。」

と泣きながら言っていました。まだ小学一年生になったばかりの小さかった弟にも離婚と言うものがどんな事か分かるんだなあと思いました。

私にも不安な事がありました。これからどう生活していくか不安でいっぱいでした。けどお母さんがくれたお守りを信じてきました。そのお守りは私にとって宝物でした。だから私は、お母さんと兄と弟と4人で一緒に暮らしていくことに決めました。

だけど、私が中学二年生になりお母さんには再婚相手がいました。私にとっては義理のお父さんになる人です。

私は離婚する時よりも再婚の方が嫌でした。けど、子供の私には反対する理由も、自分の気持ちを伝える自信がなくて何も言えませんでした。

正式に再婚をすると決めた二ヶ月前ぐらいから私の気持ちは自分でも分からないぐらい不安でいっぱいでした。

四人で暮らしていくと決めたのに再婚するって言われた時は、お母さんに裏切られたような気持ちがしました。だから私は、大人を

嫌いになりました。嘘つきな大人なんて嫌いで嫌いで私は大人にはなりたくないと思いました。だから学校には遅刻したり欠席をするようなそんな日々でした。

その時の担任の先生は私にとって唯一大人で信用できる先生でした。今となっては感謝の気持ちでいっぱいです。なかなか学校に行かない私のことを気にして家に来てくれた時もありました。

遅刻をしていたのをお母さんに知られた時

「何が不満なの。」

と泣いて怒りながらお母さんが私に言ってきたのを覚えています。その時に自分の気持ちを伝えればよかったのに、私は泣くことしかできませんでした。

一日、一日が経つ度に不安で毎日泣いたりや頭痛に悩まされていきました。

離婚をすると、こんなにも心の中はぐちゃぐちゃになるんだなあとは思いました。他人からすると、たかが離婚や再婚だと思っけど私にとって大事なことでした。

今、現在中学三年生になりましたが、心の中はまだ複雑な気持ちでいっぱいです。

人はみな平等に人権と言うものがある。今まで自分の立場を気にしてお母さんに言えなかったことがたくさんある。お母さんの気持ちも知りたいし、私の思ってたことを伝えたい。一人一人の人権を尊重し大切にしていくなきゃだと思いました。家族の問題だけではなく友達も一緒だと私は思いました。

今更言った所で過去は変わらないけど、私は離婚も再婚もしてほしくなかったです。もっと私達、子供の意見を聞いてほしかったです。

お母さんのこと、嫌いつてたくさん言ったけど大好きです。毎日、仕事や家事してくれてありがとう。

人権が一人一人にあるなら、自分の思っていることを立場など関係なく伝えてもいいと私は思いました。人権で一番大切なことは、お互いの意見を尊重していくことだと思います。

なので私は、もし同じ思いをして悩んでいるなら教えてあげたいと思います。お互いの意見を尊重するのが大切でも自分自身の気持ちを伝えなければこれから起きていくことは何も変わらないと。

これが私の思う人権です。